



## SMDI ボイスメールの連動

Simplified Message Desk Interface (SMDI) は、電話機システムが着信コールをインテリジェントに処理するために必要な情報を、ボイス メッセージ システムに提供する方法を定義します。電話機システムは、コールをルーティングするたびに、EIA/TIA-232 接続を介して SMDI メッセージをボイス メッセージ システムに送信し、使用している回線、転送しているコールのタイプ、およびコールの発信元と宛先に関する情報を通知します。

SMDI 対応のボイス メッセージ システムを Cisco Unified Communications Manager に接続するには、次の 2 通りの方法があります。

- Cisco Unified Communications Manager への標準シリアル接続を使用する
- Cisco アナログ FXS ゲートウェイへの POTS 回線接続を使用する

この章の構成は、次のとおりです。

- [SMDI ボイス メッセージングの連動の要件 \(P.31-1\)](#)
- [SMDI 用のポート設定 \(P.31-2\)](#)
- [Cisco Messaging Interface の冗長化 \(P.31-3\)](#)
- [SMDI 設定チェックリスト \(P.31-5\)](#)
- [参考情報 \(P.31-6\)](#)

### SMDI ボイス メッセージングの連動の要件

Cisco Messaging Interface サービスを使用すると、Cisco Communications Manager リリース 3.0 以降の環境で外部ボイス メッセージ システムを使用できます。

ボイス メッセージ システムは、次の要件を満たす必要があります。

- ボイス メッセージ システムに、ヌル モデム EIA/TIA-232 ケーブル (および使用可能なシリアル ポート) を使用してアクセスできる Simplified Message Desk Interface (SMDI) がある。EIA/TIA-232 ケーブルを Cisco Unified Communications Manager リリース 5.0 以降に接続するには、シスコ認定のシリアル /USB アダプタを使用します。
- ボイス メッセージ システムは、音声回線の接続にアナログ ポートを使用している。
- Cisco Unified Communications Manager サーバで、SMDI 接続用のシリアル ポートまたは USB ポートが使用可能である。
- FXS ポートが設定されている Cisco Access Analog Station Gateway、Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイ、Cisco VG200 ゲートウェイ、または Cisco Catalyst 6000 8 ポート T1 ゲートウェイがインストールされて設定されている。
- ゲートウェイが確実にルート パターンで設定されている。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「ルート パターンの設定」の章を参照してください。

## SMDI 用のポート設定

Cisco Unified Communications Manager の以前のリリースでは、SMDI および Cisco Messaging Interface を使用して、ボイス メッセージングを連動させるために特別な設定が必要でした。FXS ポートの従来の設定方式では、アナログ アクセス ゲートウェイ (Cisco AS-2、Cisco AS-4、Cisco AS-8、または Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイ) の個々のポートをルート グループの別々のエントリとして明示的に設定する必要がありました。各アナログ アクセス ポートのルート リストまたはルート グループ内での相対的な位置によって、Cisco Messaging Interface から報告される SMDI ポート番号が決定されていました。

Cisco Communications Manager リリース 3.0(5) 以降では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して SMDI ポート番号を設定できるようになりました。

ボイス メッセージ システムとのインターフェイスに Cisco Catalyst 6000 8 ポート T1 ゲートウェイ (6608) を使用している場合は、T1 スパンごとに SMDI ベース ポートを設定する必要があります。

新しい SMDI ポート番号設定を使用するには、次の手順を実行します。

1. ボイス メッセージ システムに接続している各アナログ アクセス ポートを変更し、SMDI ポート番号を、アナログ アクセス ポートの接続先であるボイス メッセージ システム上の実際のポート番号と同じ値に設定します。

この最初の手順では、ルート リストまたはルート グループを変更する必要はありません。新しく設定した SMDI ポート番号によって、ボイス メッセージ システムに接続しているデバイス用に設定した既存のルート リストまたはルート グループの設定が上書きされます。

2. この新しい設定を利用して Cisco Unified Communications Manager のシグナリング要件を低減するには、従来の設定方式で設定されたルート グループ内の各アナログ アクセス デバイスを変更します。ルート グループ内でデバイスの個々のポートを識別している複数のエントリを 1 つのエントリに変更し、そのエントリでポートの選択として「すべてのポート」を指定します。

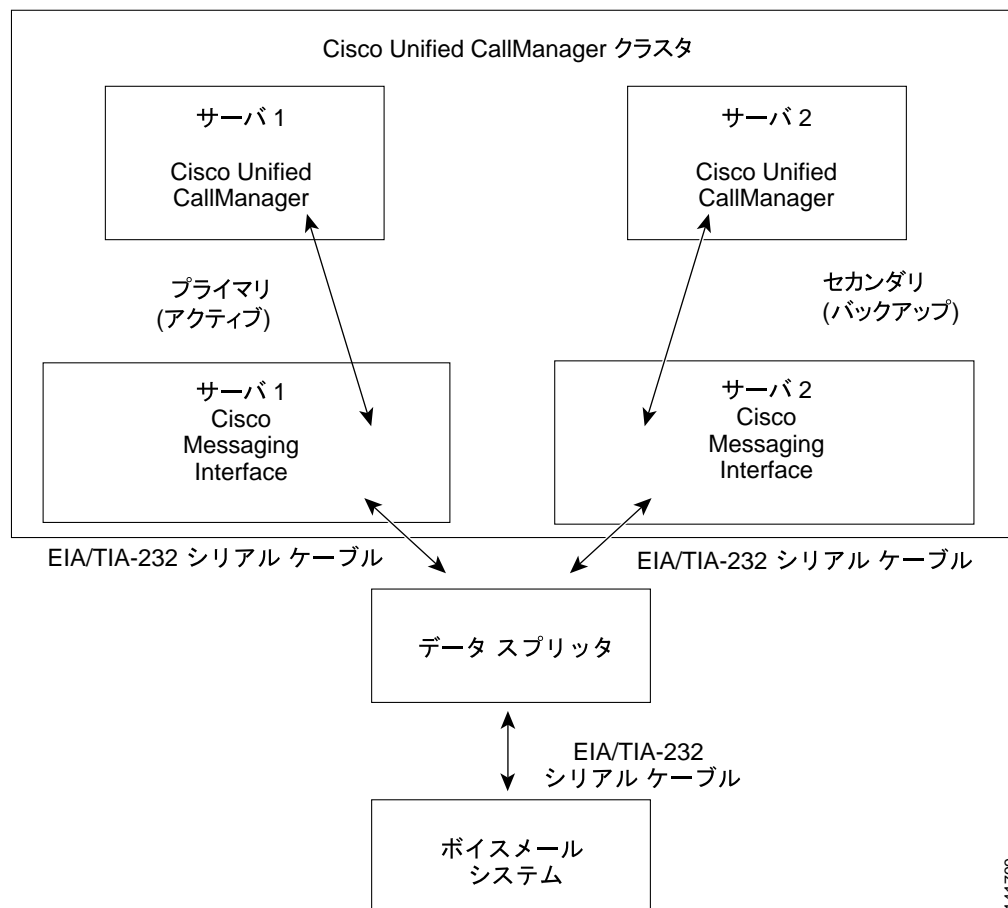
これらのデバイス エントリのそれぞれの選択は、異なる順序にも、同じ順序にもできます。

## Cisco Messaging Interface の冗長化

EIA/TIA-232 シリアル ケーブル (旧称 RS-232 ケーブル) を使用して電話機システムと通信しているボイス メッセージ システムには、ほとんどの場合、シリアル ポートが 1 つだけあります。Cisco Messaging Interface の冗長化を実現するには、Cisco Messaging Interface サービスの 2 つ以上のコピーを Cisco Unified Communications Manager クラスタ内の別々のサーバ上で実行し、データ スプリッタなどの追加ハードウェア (後述) を使用します。

Cisco Messaging Interface の各コピーをプライマリ Cisco Unified Communications Manager とバックアップ Cisco Unified Communications Manager に接続し、同じ VoiceMailDn と VoiceMailPartition のサービス パラメータ値を使用して、Cisco Unified Communications Manager に登録します。サービス 優先順位の高い Cisco Messaging Interface (アクティブ Cisco Messaging Interface サービス) が SMDI の処理を行います。この Cisco Messaging Interface に問題が発生した場合、別の Cisco Messaging Interface が処理を引き継ぎます。図 31-1 は、Cisco Messaging Interface の冗長化を実現するさまざまなレイアウトの一例を示しています。

図 31-1 Cisco Messaging Interface の冗長化



141799



(注)

Cisco Messaging Interface の冗長化を実現するには、図 31-1 に示すデータ スプリッタなどのデバイスを使用して、SMDI メッセージングをさまざまな Cisco Messaging Interface サービスから分離させる必要があります。通常の Y 型シリアル ケーブルを使用して EIA/TIA-232 ストリームを結合することはできません。

ボイスメッセージシステムに接続するデータ スプリッタ、たとえば、B&B Electronics モデム データ スプリッタ (モデル 232MDS および 9PMDS) は、次の特性を備えている必要があります。

- 高い信頼性
- 双方向通信
- 最小限の伝搬遅延
- 外部ソフトウェアのサポートが不要 (推奨)
- 余分な EIA/TIA-232 制御回線動作がない (推奨)

232MDS には、2 つの DB25 オス型ポートと 1 つの DB25 メス型ポートがあります。9PMDS は、このモデム データ スプリッタの DB9 バージョンです。これらのスイッチは、Cisco Messaging Interface のサービス パラメータ `ValidateDNs` を `False` に設定した場合、次の制限付きで Cisco Messaging Interface の冗長化を実現します。

- 2 つの Cisco Messaging Interface が同時に SMDI メッセージを送信できない。極端な状況では、Cisco Unified Communications Manager クラスタが接続不能の 2 つの部分に分断されてしまうネットワーク障害が発生するおそれがあります。万一このような状況が発生した場合、Cisco Messaging Interface のコピーが両方ともアクティブになり、ボイスメッセージシステムに同時に SMDI メッセージを送信する可能性があります。この場合、衝突により誤ったメッセージがボイスメッセージシステムに送信され、コールが正常に処理されなくなるおそれがあります。

## SMDI 設定チェックリスト

表 31-1 は、SMDI を使用しているボイス メッセージ システムを連動させるために必要な手順の概要を示しています。

表 31-1 SMDI 設定チェックリスト

設定ステップ		関連した手順と項目
ステップ 1	ゲートウェイ ポートを追加し、設定します。  Octel システムを設定していて、Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS アナログ インターフェイス モジュールまたは AST ポートを使用している場合は、各ポートの Call Restart Timer フィールドを 1234 に設定しません。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの追加」
ステップ 2	ルート グループを作成し、ステップ 1 で設定したゲートウェイ ポートをルート グループに追加します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートグループの設定」
ステップ 3	ステップ 2 で設定したルートグループを含むルートリストを作成します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートリストの追加」
ステップ 4	ルート パターンを作成します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートパターンの設定」
ステップ 5	Cisco Messaging Interface サービスをアクティブにし、設定し、実行します。	『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』  『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
ステップ 6	Cisco Messaging Interface トレース パラメータを設定します。	『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』
ステップ 7	ボイス メッセージ システムを設定し、EIA/TIA-232 ケーブルを使用してボイス メッセージ システムを Cisco Unified Communications Manager に接続します。EIA/TIA-232 ケーブルを Cisco Unified Communications Manager リリース 5.0 以降に接続するには、シスコ認定のシリアル/USB アダプタを使用します。	システムに付属のマニュアルを参照してください。

## 参考情報

### 参考資料

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
- 『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』
- 『Cisco Unified Communication ソリューションリファレンス ネットワーク デザイン (SRND)』